

Q1. 飾っていたら変色しました…

A. 蜜蝋は紫外線にとっても弱いので、飾ると白や茶系に色あせてしまいます。本来の色を保ちながら精製・製造するのは大変ですが、自然のもたらした美しさを伝えたくて最もこだわっております。溶け口が広がると、炎が蜜蝋の色を透かし出し、とても美しい色を見せてくれるのです。ただ残念なことに、包装していても色あせは進みます。どうぞ包装したまま暗い所に保管し、なるべくお早めにお使い下さい。



Q2. 透けた色が見えてきません

A. 点灯時は、蝋がまだ厚いので周りの色を通かせません。溶け口が広がれば広がる程、全体的に透けてきます。ただし、長く灯していると溶け口が熱を持ち白くなり色が鮮やかに見えなくなります。最も透けた色を楽しめるのは、まだ熱を帯びていない、溶け口がある程度広がった二度目の点灯からです。

Q3. 茶系でも美しいと思いますが…

A. 蜜蝋の色は季節の花粉の色がもたらした美しい天然色ですので、この色を壊さないよう製造しております。確かに変色しても、きれいな炎を見せてくれますが、最も心を癒してくれる美しい匂が過ぎってしまったことは事実です。そのような蜜蝋キャンドルは、今ならどこでも手に入れます。

Q4. 真ん中だけが凹みました

A. 毎日、短時間の点灯を繰り返すと、その度に芯が消耗します。時々、溶け口が縁に広がるまで灯して下さい。決まった時間点灯される場合は、数分なら直径13mm、十数分なら20mm、一時間以上なら40mm以上が目安です。



Q5. 外で灯したら流れました

A. 蜜蝋は風にとっても弱いのです。室内でも空調の風で炎がかたむき、一方だけが溶け流れ出てしまいます。なるべく無風の所でお楽しみ下さい。

Q6. 炎が小さいです

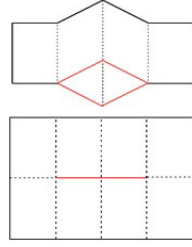
A. 徐々に大きくなりますので、心配はありません。特に寒い季節は、点火直後の炎が30分以上も小さいことがあります。おそらく、溶け口に溜まった蜜蝋の温度が低くガス化しづらいのだと思います。



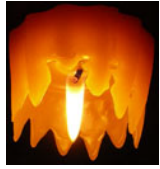
右が点火直後

他の理由としては、芯が倒れているか蝋が折れて短いことが考えられます。また、長く灯ると煤が落ちて芯を目詰まりさせることもあります。その時は溶け口の蝋を捨てて下さい。火をいじて溶け口を煤で黒く汚すのも厳禁です。逆に炎が大きすぎる時は、少し芯先を切って短くしてみてください。

ハチ靈の茶キャンドル



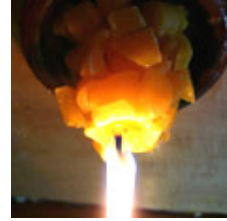
ミニ本の作り方
折目をつけ、赤線部分を切り、横長に折り、まん中を開いて折り、端をのり付けして完成!



A. ゆっくり静かに灯る靈ろうの性質に合わせ、きりぎり固めの糸を使用しているために、稀に芯先に炭化物を付けてしまう場合がございます。恐れ入りますが、いったん消火してから取り除いて下さい。

Q9. 芯先に黒い固まりが?

詳しいQ&Aはこちらもご覧下さい
<http://mitsurou.com/shop.html>



A. 底に付けてある座金は、安全に消火するためのものです。しかし、小さな命のミツバチがもたらした蜜蝋が残ってしまうのはもったいないです。フライヤーであったためと柔らかく粘着力が出ます。小さくチップ状にして、芯糸にくっ付け、即席のキャンドルを作ってお楽しみいただけましたら幸いです。「再利用灯芯」を販売しております。

Q8. 残りの蜜蝋がもったいない



A. 寒い季節(氷点下近く)に、表面にろう粉が付くのは本物の証です。おそらく表面の油分が寒くなって固まるのではないかと思います。これは色あせではありません。気になる場合は、フライヤーなどで熱風を当てれば、すぐに溶けてなくなります。お客様からは「灯すと白い粉を溶かして、お色やかな色が現われるのかわいい」と和形は白っぽく見えるし情緒があつていいなと感想をいただいております。

Q7. 白い粉がこいていきますか?

蜜蝋キャンドルの上手な灯し方 Q&A